

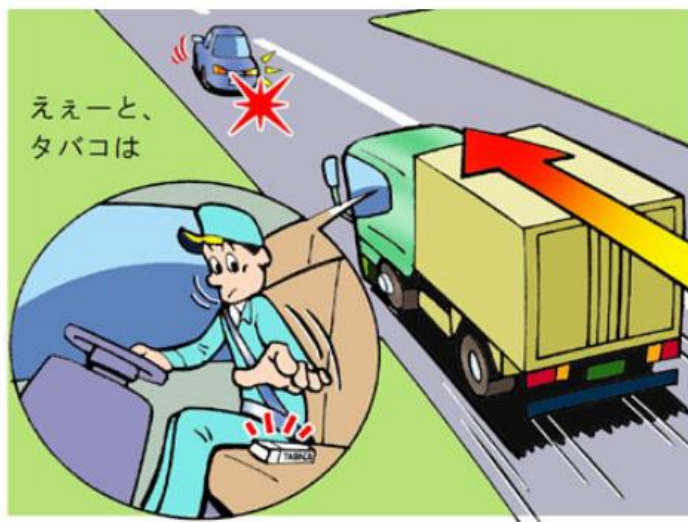
週刊 タバコの正体

自動車を運転中に喫煙するドライバーの姿はよく目にします。喫煙中は片手にタバコを持っているので片手運転となってしまう、突発的な対応ができなくなり危険です。それ以外にも、走行中にタバコを吸うための動作や吸いかけのタバコを落としてしまうなどで、前方不注意となり大事故につながります。下図のように実際に死亡事故が発生しています。

【こんな事故が起こっています】

■タバコを探して追突、押し出された車が正面衝突

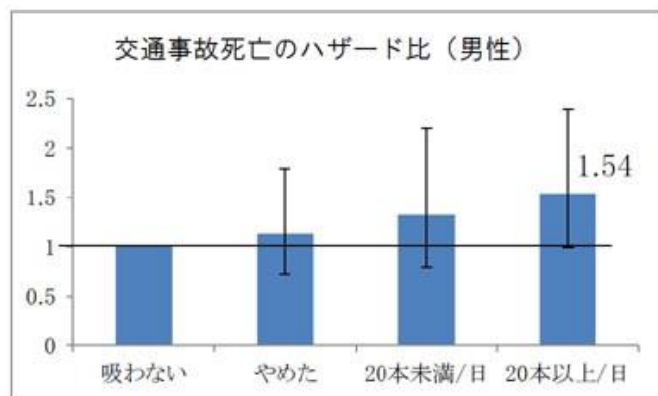
2011年7月25日、愛媛県今治市内の瀬戸内しまなみ海道で、中型トラックの運転者が「ドアポケットに入れていたタバコを探していて、一瞬目を離した」すきに前方の乗用車に追突しました。この事故で対向車線に押し出された乗用車が大型トラックと正面衝突して乗用車の2人が死亡、3人が重軽傷を負いました。



■タバコの火を消そうとして正面衝突

2010年2月23日、広島県世羅町内の国道で、「タバコの火が足元に落ち、これを消そうと足元を見ていた」36歳男性の運転するトラックが対向車線へ逸脱して軽ワゴン車と正面衝突する事故を起こしました。この事故で軽ワゴン車は大破し、乗っていた男女3人が死亡しました。

シンク出版 HP から



男性では非喫煙者と比べて、1日たばこを20本以上吸う者は交通事故死亡のリスクが1.54倍高かった

そんなわけで左のグラフは、ある大学が交通事故死と喫煙の関係を調査した結果です。タバコを多く吸う人は吸わない人より交通事故死のリスクが高いという結果でした。

運転中にタバコを吸いたくなり、目を離れた一瞬に命を落とすかも知れないのですから、タバコに手をだしてはいけません。